

[アルキテクトン]

www.shikaku.co.jp

Architekton

万物に学び知識を深め、創造の世界を広げる

首都圏

2026 October

建築生産設計特集

設計者と施工者をつなぐ架け橋

43

はじめに

建築プランを建物として実現するためには、寸法、材料、製品、位置などの一つ一つの詳細を確定しなければなりません。それらの情報をすべて明記した図面は「施工図」と呼ばれています。建築現場での作業においてプランを具現化するための指針ともいえる施工図。関係者と打ち合わせ・調整を行い施工図としてつくりあげていく行為が「建築生産設計」といわれるものです。建築主と設計者が共に作り上げたプランを建築施工作業とつなぐ架け橋となる建物づくりに必要不可欠な仕事です。

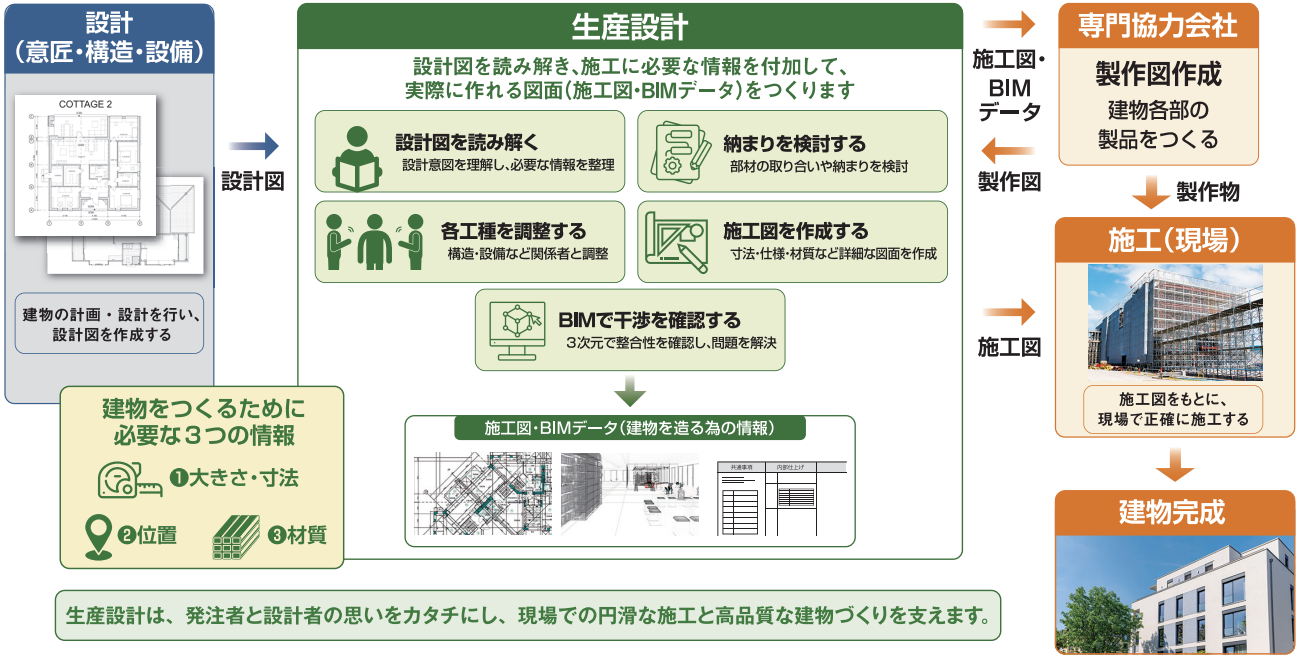
今回は、建築生産設計に焦点を当てた「Architekton（アルキテクトン）首都圏―建築生産設計特集」（第２弾）をお届けします。建築を学ぶ専門学校生によるゼネコンの研修施設の解説付き見学や施工図体験についてリポートするほか、建築生産設計を手掛ける企業の紹介、実際に建築生産設計に携わるエンジニアたちと、そのエンジニアに専門学校で建築を教えていた先生方による座談会の模様も収録しています。

これらを通じて、建築生産設計をより身近に感じてもらいたい――そんな思いで、この冊子を作りました。冊子作成に当たり、建築生産設計協力会の皆さまに多大なるご支援とご協力を頂いたことに感謝申し上げます。

株式会社総合資格

生産設計とは？

設計と施工の橋渡しをし、建物を「造れる図面」にする仕事です



Contents

「学生 × 生産設計」 3

学生が清水建設の研修施設「NOVARE アカデミー」に学ぶ
浜田晃司 NOVARE アカデミー塾長インタビュー

「学生 × 施工図」 7

学生が BIM、手書きで施工図作業を体験

「教員 × 建築生産設計協力会」 9

専門学校教員と最前線で施工図を描く若手の座談会
～生産設計の未来を育てる～

学校紹介 13

中央工学校／東京テクニカルカレッジ

建築生産設計協力会の活動 17

会員企業紹介 19

sai テクニカ／匠設計コンサルタント／西建設計／山本設計企画



清水建設「温故創新の森　NOVARE」の建物

見学会【温故創新の森　NOVARE アカデミー】

モックアップを通じて「施工図」の在り方を学ぶ

中央工学校、東京テクニカルカレッジの学生 20 人が参加

建築生産設計協力会（中村務会長）は6月15日、建築を学ぶ専門学校生を対象にしたゼネコンの研修施設の見学会を開催しました。中央工学校（東京都北区）と東京テクニカルカレッジ（同中野区）の学生20人が参加し、清水建設が東京都江東区に設けた研修施設「NOVARE アカデミー（ものづくり至誠塾）」を訪れました。施工現場を模した実物大モックアップなどの見学を通じて、建築施工に必要な情報を現場作業員に伝える生産設計の役割を学んでもらう機会となりました。

JR潮見駅に近いNOVAREアカデミーは、人財の育成と技術の継承を目的として、2023年に開設した清水建設の研修施設です。社内研修に加え、学生をはじめとする外部向け研修にも施設を利用できるようにしています。施設内には、RC構造、S・CFT構造、PCa（プレキャスト）・ハイブリッド構造などの実物大モックアップが設けられています。各構造部材の納まり、建物の内装、各種設備機器、ジョイント部、屋上防水など、建築施工における留意点を確認できるようになっています。






中村会長


浜田塾長


坂本副会長

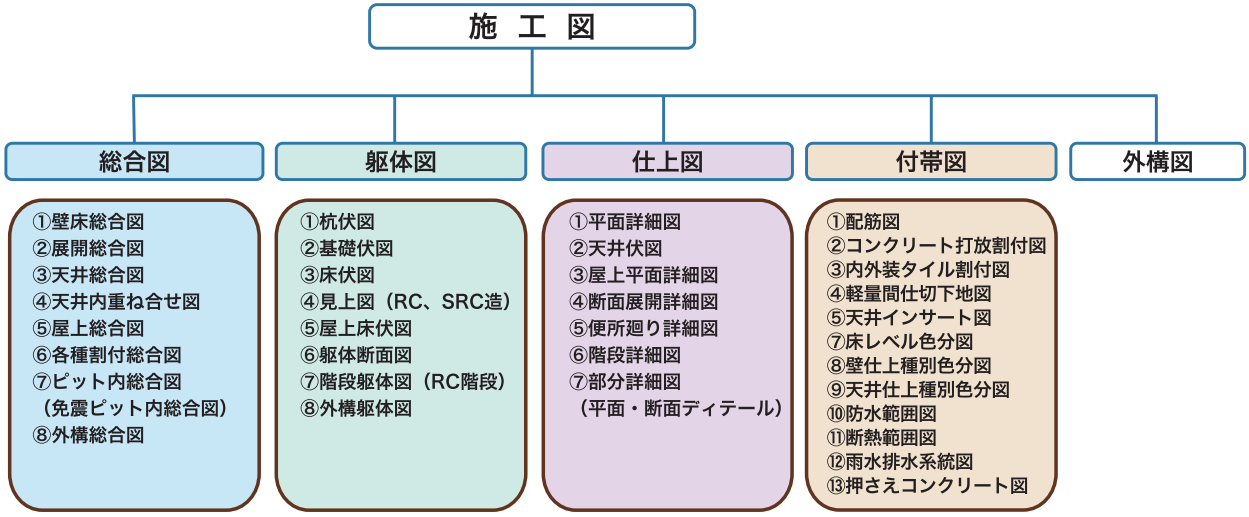
見学会の開催に当たり建築生産設計協力会の中村会長は、「皆さんは日ごろ学校で建築を学んでいますが、建築に関わる仕事にはさまざまなものがあります。施工図を描く生産設計もその一つで、設計者というよりもエンジニア的な存在になります。今回はNOVAREでものづくりの過程を学ぶ中で、生産設計の魅力を感じてもらいたいとの思いから、清水建設様に協力していただき、見学会を企画しました」とあいさつしました。

続いて、NOVAREアカデミーを含む、清水建設がこの地に設けた「温故創新の森NOVARE」について紹介する数分間の動画を視聴。研修だけでなく、同社の建設会社としての歴史を学べたり、移築した近代建築史における貴重な建造物を見られたりと、創業以来のものづくりの原点に立ち返ることができる施設であると説明を受けました。また、建設技術を核としたイノベーションの拠点として、社内外と連携した研究開発が行えるようにもなっているとのことでした。

動画視聴に続き、NOVAREアカデミーの浜田晃司塾長が、ビルなどの建設における建築施工の全体像を紹介しました。全体スキームの中で、設計者、施工を担うゼネコン、工程ごとに専門職種の施工を手がけるサブコンや専門工事業などの役割を説明しました。

浜田塾長によると、「施主の要望を設計者が図面として翻訳したもの」が設計図面となります。基本計画、基本設計、実施設計と段階を経る中で、詳細な内容が順次確定していく過程も紹介しました。施工図を描く生産設計については、例えば壁の厚さや窓枠の位置など設計図面の段階では確定していない詳細部分までを図面に描き込み、現場で作業を行う施工者に必要な情報を伝達する役割があります。生産設計は「設計図面を単にトレースするだけではなく、細部に至るまで現場用に図面を描いていく知的な業務」だということです。

建築生産設計協力会の坂本博昭副会長は、施工図の役割をプラモデル作りに例えて説明しました。施工図については、「部品ごとに組み立てる順番などを詳細に記した取扱説明書のようなもの」だと例えました。生産設計で描く図面には、「総合図」「躯体図」「仕上図」「付帯図」の四つに大別され、建物の内容や



生産設計で描く施工図の内訳

規模などに応じて製作図を含めると「現場によっては何千枚、何万枚にも及ぶ図面を描くこともある」と話しました。

その後のNOVAREアカデミーの見学は、参加者を四つの班に分けて行われました。施設内のモックアップを順次見て回りながら、S・RC造、地下、内装、外装に関して、施工図を描く視点からそれぞれのポイントを、講師役の協力会メンバーが説明しました。床スラブを想定したモックアップでは、コンクリート打設前の鉄筋が組まれた状態を見ることができましたが、講師役のメンバーは「利用者（居住者）の使い方までイメージしながら、施工図を描いていくことが重要です」などと話していました。

見学を終えた学生からは、「授業で聞いていた内容を、実際の現場を模したモックアップで初めて見ることができ、とても勉強になった」「現場の構造などを直接目にすることができた」「学校で教わったことが点と点でつながり、理解を深めることができた」など、学校の机上で学んだ建築の知識をじかに見る貴重な機会になったと話していました。また、施工図を描く生産設計の仕事については、「建築物を造る上で必要な作業だと感じた」「学校で学んだ知識が生かせる仕事だと感じた」といった感想が聞かれました。卒業後の進路の選択肢の一つとして意識する学生も多く、「生産設計について、もっと詳しく話を聞いてみたいと思った」との声も数多く寄せられました。

















清水建設株式会社　NOVARE アカデミー塾長インタビュー



「故きをたずね、新しさを探究する場」

浜田　晃司氏

（はまだ・こうじ）一級建築士、１級建築施工管理技士。1980年清水建設入社。30年近く現場の係員や所長として従事した後、新潟営業所長、生産技術本部副本部長、清水建設ものづくり研修センター長などを歴任。2023年から現職。

人材育成やイノベーション創出の場でもある清水建設の「温故創新の森　NOVARE」（東京都江東区）。研修施設NOVAREアカデミー塾長の浜田晃司氏に、後進の指導やイノベーション創出を目指す同社の狙いについて、お話を伺いました。

――NOVARE（ノヴァーレ）という施設名称に込めた思いをお聞かせください。

「ラテン語の〈インノヴァーレ〉は、〈イノベーション〉の語源です。『新しくする』『創作する』という言葉から連想された〈ノヴァーレ〉を施設名称とすることで、事業構造、技術、人財のイノベーションを強力に推進したいという当社の思いを表しています」

――イノベーションを起こすための拠点だということですね。

「イノベーションを起こすためには、クリエーティブな人材を育成することが必要です。当社には、建築や土木、設計、営業などの部門があり、人材育成に向けて各部門がカリキュラムを構築しています。カリキュラムに基づく社員研修は、新入社員として入社した段階に加え、節目の年次で実施しています。そうした社員研修の場がノヴァーレアカデミーです」

「イノベーションを起こしていく上で、社内の雰囲気作りも大切だと思っています。施設内には、イノベーションを推進する組織も置いていて、さまざまな人材との交流を通じて、新たな取り組みに挑戦するための機運醸成に役立てています。2024年４月に全面開設となって以降、イノベーション創出に向けた活動に貢献できていると思っています」

――会社の歴史に触れられるようにすることにも力を入れています。

「ノヴァーレには論語の『温故知新』に着想を得た『温故創新』という言葉を付しています。創業以来のものづくりの原点に立ち返り、進取の精神を育む場にするのが狙いです。敷地内に設けた清水建設歴史資料館や、二代目清水喜助の建築作品を移築した旧渋沢邸を通じて、当社の歴史を知り、会社への愛着心を持ってもらえるようにしたいと考えています」

――会社として、社員の起業や独立も支援していますね。

「コーポレートベンチャリング（CV）制度ということで、社員が考案したアイデアで起業する活動を後押ししています。先進的なイタリア式の避難所システムを参考にして、自立的かつ快適な避難所空間を短期間で構築する避難所の統合運用プラットフォームを提供する『ShelterOne』などがあります」

「当社の歴史は、1804年に宮大工として創業したことから始まります。二代目清水喜助は、1860年前後の横浜開港時、小さな漁師町であった横浜を外国人居留地として整備する建設ラッシュに果敢に挑戦しました。『論語と算盤』とともに当社が掲げる『進取の精神』は、創業時から育んだ新しいことにチャレンジするという当社の気風を表したものでもあります」

――研修施設は、社外向けにも利用できるようにしています。

「将来建築の仕事を目指す若い人たちに利用していただきたいと考えています。特に施工系の人材が今後不足することが見込まれていますので、実寸大のモックアップでものづくり現場を体感できる施設の見学を通じて、現場施工の面白さや、魅力をアピールしています。建築を学ぶ大学生に加え、高校生や中学生などに幅広く見てもらいたいですね。学生などのほか、同業他社の研修の場としても利用いただけるようにしています」

――今回、建築生産設計協力会が主催し、建築を学ぶ学生の皆さんに施設を見学してもらいました。

「現場の施工図を描く生産設計の仕事は、学生の皆さんにはイメージがしづらいかもしれません。設計図面に品質や技術の要素も取り込んで描いた施工図は、現場でどのような作業を行うかを伝える重要な役割を担っています。設計と実際の現場の架け橋となる、とてもやりがいのある仕事です。今回の見学を通じて、生産設計に興味を持ってもらいたいと思っています」。



施工図体験

BIMと手書きで生産設計の魅力学ぶ

建築生産設計協力会（中村務会長）は７月９日、建築を学ぶ専門学校生を対象にした「施工図体験」を開きました。中央工学校（東京都北区）と東京テクニカルカレッジ（同中野区）で建築を学ぶ学生９人が参加。会場となった会員企業の sai 総合企画の本社（東京都千代田区）で、BIM と手書きによる施工図作成に挑戦しました。体験を通じて、生産設計に対する理解と関心を一層深めたようです。

◆BIM体験＜基本操作を習い、建物モデルの構築に挑戦＞

冒頭、中村会長は「私たち生産設計者は、建物をつくる上で最終的に必要な図面を作る役割を担っています」と生産設計の仕事を紹介。「学びの多い一日になれば幸いです」と期待を寄せました。その後、学生たちは２班に分かれ、BIM と手書きによる施工図作成を交代で体験しました。



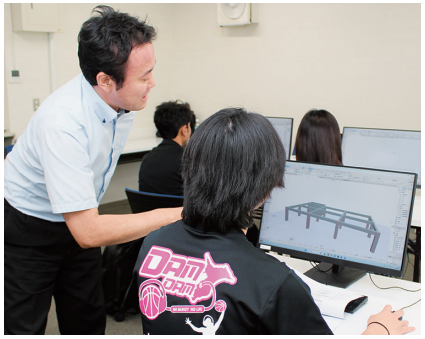


BIM 体験では「施工 BIM のプロから学ぶ初心者のための講習会」と銘打ち、グラフィソフトの BIM ソフト「Archicad」を用いて、簡略化した建物モデルの構築に挑戦しました。講師を務めたアイテックの木村雄一代表取締役社長は、直近 10 年間で年間約 50 件の BIM モデルの構築・納品に携わってきたスペシャリストです。木村社長はまず、BIM の概要を解説した後、自ら手掛けた作品を交えながら、建築モデルや統合（総合図）モデルなど、BIM の活用事例を紹介しました。

その後、テキストを基に Archicad の基本操作をレクチャーしました。学生たちはパソコン画面上に通り芯を表示し、その上に柱や梁、壁、ドア、窓、床、家具などを配置して、建物モデルの作成に取り組みました。木村社長は、梁のモデリングの際に、コンクリートの増し打ちに必要な情報の入力に支障が出ないように「左から右へ」「下から上へ」と一定方向で作業を進める重要性に言及するなど、実務経験に基づくノウハウも惜しみなく伝えました。最後に木村社長は「今日の体験は Archicad の初歩ですが、機会があれば、ぜひ学校の課題などで生かしてほしいです」と呼び掛けました。



木村雄一氏





◆手書き体験＜平面図と立体図を行き来し、施工図作成の基礎を学ぶ＞

手書き体験は「施工図に必要な情報　２次元から３次元へ…３次元から２次元へ」をテーマに行われました。講師のYOU建築事務所の田原和樹代表取締役社長は生産設計者として30年以上の経験を持ち、現在も実務に携わっています。田原社長は、建物を造るために必要な情報として、「対象物の大きさ・寸法」「基準線からの位置（高さ方向を含む）」「対象物の材質（名称）」の三つの重要性を説明しました。それを踏まえ、学生たちは題材となった直方体の建物の平面図と立面図に三つの情報を書き込む演習に取り組みました。

次の演習では、直方体の一部をへこませた不整形の建物を対象に、平面図から寸法や位置、材質など必要な情報を読み取り、立体図を描く練習をしました。苦戦する学生には田原社長が、最初に直方体を描いてからへこみの部分を削る方法などコツを伝授しました。

さらに、不整形の立体図を基に見下げ図、展開図、断面図を作成し、それぞれに三つの情報を書き込みました。実際に施工する場面を想定し、高さや奥行きなども肉付けしました。

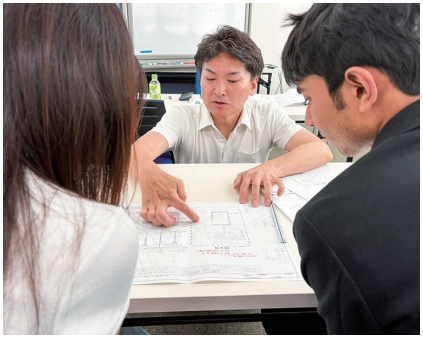
最後に田原社長は実際の施工図を示し、「情報量が多いと思うでしょう。しかし、造る物の大きさ、位置、名称という今回学んだ三つの情報を一つ一つ丁寧に入れて作るのが施工図です。それは手書きでも2DCADでも、BIMでも同じです」と説明。その後の質疑では、学生から「本当にミリ単位で情報を入れるのですか」と質問があり、田原社長は「１㎜まで追求して図面を描く仕事です。興味があれば、ぜひ生産設計の業界に入ってください」と応じました。


田原和樹氏









理解深め進路の選択肢にも

最後に、建築生産設計協力会の坂本博昭副会長は、「手書き体験で学んだ物の大きさや位置、材料といった情報は、手書きでもBIMでも建物という空間を立体的にイメージする上でとても大切です」と体験の意義を強調しました。その上で、「生産設計者はエンジニアですが、クリエーティブな要素もあります。本日の体験をきっかけに生産設計の仕事に興味を持ち、将来の進路の一つとして考えてもらえればうれしいです」とメッセージを送りました。

体験後に実施したアンケートでは、多くの学生が「学校で学んだ知識が生かせる仕事だと感じた」と回答しました。「生産設計を手がける仕事に就きたいと思った」「就職先の一つとして選択肢に入れたいと思った」と答えた学生も多く、卒業後の進路を考える上で、有意義な一日となったようでした。

座談会　教員×建築生産設計協力会 ～生産設計の未来を育てる～



【出席者】

司会　建築生産設計協力会	中村 務会長	
中央工学校	西岡 貴之先生	
東京テクニカルカレッジ	野上 和裕先生	
アイテック	頼 勇偉さん	2023 年入社　中央工学校建築設計科卒
池下設計	尾崎 竜亮さん	2018 年入社　東京テクニカルカレッジ建築科卒
池下設計	村田 愛実さん	2025 年入社　東京テクニカルカレッジ建築科卒
西建設計	浅見 竜太さん	2022 年入社　中央工学校建築学科卒
YOU 建築事務所	石島 ひなこさん	2016 年入社　中央工学校建築設計科卒

■専門学校ならではの実践的教育

中村　本日はお集まりくださりありがとうございます。専門学校の先生方、若手社員の方々と共に、生産設計の魅力や仕事のやりがいなどについて語り合いたいと思っています。まずは先生方に、学校の特色や日頃どんな授業をされているかお伺いします。

野上　東京テクニカルカレッジの建築科で教員をしています。建築科は２年制で、幅広く建築を学べるのが特徴です。施工関係に進む学生が約半数、設計関係が約３割で、設備系や生産設計に進む学生もいます。授業では、建築には色んな図面があることを教え、現場で応用が利く基礎力の習得を重視しています。BIM に関しては、企業と連携して実践的な演習を取り入れています。今日は卒業生の成長した姿を見られるのを楽しみに来ました。

西岡　中央工学校で施工系のクラスを担当しており、このクラスの卒業生の多くは施工管理職に進みます。４年次の卒業制作は、１年間を通して取り組むカリキュラムです。４月の敷地選定から始まり、意匠設計や構造設計を約半年かけて行います。その後の半年では施工図を作成し、設計者と施工管理者の双方の立場から建物の納まりまで検討しながら、建築の一連のプロセスを実践的に学び、最終成果物として完成させます。施工図は、職人や関係者へ分かりやすく伝えるためのコミュニケーションツールです。本校では、専門学校ならではの実務に即した教育を徹底し、実


中村会長


西岡先生


野上先生


頼さん

践力を身に付けられるカリキュラムとなっています。

中村　私も中央工学校の卒業生です。元々は大学の文学部出身で一度就職したのですが、24歳の時に建築を学ぼうと入学しました。建築を志した動機は「自分の家を自分で設計したい」だったのですが、生産設計職として六本木ヒルズやダイバーシティ東京などのランドマークとなる建物づくりに夢中で取り組み、あっという間の20年でした。皆さんはどのような理由で生産設計職に進みましたか。

頼　中国から来日して８年目になります。「日本で自分の設計した家を建てたい」という夢を持って中央工学校に留学しました。先生から外国人にもチャンスの大きい業界だと聞き、この職に就きました。現在入社４年目です。最初の現場では先輩についてサポートしてもらっていましたが、今はほぼ一人で図面修正を担当しています。

浅見　工業高校の建築科を卒業し、設計をもっと詳しく学びたくて中央工学校に入りました。会社説明会で実際の施工図を見せてもらったことが、生産設計に興味を持ったきっかけです。「こんなに細かい設計の分野があるのか」と驚きました。

石島　もともと設計志望で専門学校に入学したのですが、緻密な図面を描く生産設計に興味を持ちました。課題で設計図を描いていて、「本当に建てられるのだろうか」と疑問を持つこともあり、現場に寄り添った仕事をしたいと思ったことも理由の一つです。



尾崎　生産設計職を選んだのは、正直なところ消去法に近かった部分もあります。図面を描きたいけれど、意匠設計に進むほどデザインにこだわるタイプではないし、構造設計も難しい選択だと迷っている時に、生産設計を知りました。入社してからその面白さにハマっていったという感じです。

村田　私は2025年に入社し、２年目です。ゼロから一を生み出すより、一を十にする作業のほうが向いていると学生時代から感じていたので、迷わずこの業界を選びました。今は高層複合建物の上層階ホテル部分を担当しています。

■生産設計は設計者と施工者の架け橋

中村　それぞれ楽しんで仕事をしている様子が素晴らしいです。先生方から見て、生産設計に向いている学生の特徴はありますか。

野上　実際に建てる時のイメージができる人、法規や納まりのことも考えられる人が向いていると思います。一つのことにこだわりすぎず、広い視野で考える力が必要です。全


尾崎さん


村田さん


浅見さん


石島さん

体を見渡せる人は図面の仕上がりも細かいところまで行き届いていますね。

西岡　根本的にものづくりが好きな人、既存のプランを深掘りできる人だと思います。白紙に最初の線を引くのには時間がかかっても、できあがったものに対して「どうすればより正確になるか」を追求することが向いている学生はいます。CAD の操作が得意な人も適性があります。

中村　設計者と施工者の架け橋となる生産設計ならではの面白さがある仕事ですが、それぞれに苦労も重ねてこられたと思います。自分なりの課題解決の軸や、仕事のポリシーといったものはありますか。

浅見　最初に設計図を徹底して読み込むことを自分のルールにしています。手戻りやミスが発生するとスケジュールの遅延につながります。とりあえず手をつけるのではなく、準備をして上司や現場の方と打ち合わせし、自分の認識が合っているか確認してから手を付けることを意識しています。

頼　一つ前の現場で小規模な倉庫を任され、各種製作図の手配や設計者との打ち合わせを一人で担当したことがあります。当時は言語の壁もあり、設計者の指示を業者にうまく伝えることができず、双方からお叱りを受けてしまいました。当時は大変な思いをしましたが、振り返ると貴重な経験でした。それ以来、コミュニケーションを大切にすることを自分の軸にしています。

中村　生産設計は特に経験工学の色が強い職種ですからね、皆さん頼もしい限りです。それでは、自身で成長を感じる時はどんな時ですか。

石島　入社 10 年目ですが、担当物件は２件目です。大型工事のため５年間同じ現場に常駐しました。主に躯体図を担当し、地下から地上、外構まで手掛けました。今は製作図の取りまとめや設計者との打ち合わせも任されるようになりました。自分の成長を感じる間もなく突っ走ってきたというのが正直なところですが、後輩も増えてきて、先輩としての責任を感じるようになりました。これも成長の一つなのかなと思っています。

尾崎　内装の施工図や製作図を多く経験してきて得意にしているのですが、ある時、有名設計事務所が手掛けたデザイン重視の物件を担当しました。納まり検討に非常に苦労した分、完成したかっこいい空間を目にした時の感動はひときわ大きかったです。

村田　まだ１年と少しなので成長と言えるほどではありませんが、図面や納まりに関する





知識は格段に増えました。自分なりに改善策を考えることもできるようになり、もっと成長していきたいと思っています。

■建築を形にするために欠かせない仕事

中村　成長がやりがいに変わっていくのも生産設計の魅力の一つです。それでは教員側の視点では、建築における生産設計の重要性をどのようにお考えですか。

野上　意匠設計に進むと宣言していた卒業生が、学校に遊びに来て「今施工図を描いています。こんなに面白い仕事は他にありません」と言ったのが印象的でした。建築を形としてつくり上げるために欠かせない、施工性を左右する生産設計こそが現場の本当の花形だと思ったそうです。建築といえば世間がイメージするのは意匠設計ですが、施工管理や生産設計といった重要で、かつ魅力的な仕事があることを知ってもらいたい。高校生やもっと若い世代に業界全体でアピールし、建築自体のファンを増やしていく必要があると感じています。

中村　おっしゃる通りです。担い手不足はどこも共通。競い合うのではなく、建築業界全体で取り組むべき問題です。それでは将来の後輩となりうる、今建築を学んでいる学生へのメッセージもお願いします。

石島　入学の際は意匠設計志望の学生が多いと思いますが、建築には色んな業種があるので、その中から自分に合うものが見つかるといいですね。生産設計も選択肢の一つに入れてもらえるとうれしく思います。

浅見　まずは生産設計という仕事があることを知ってほしい。そしてぜひこの業界に飛び込んでみてもらえたら。最近、後輩と一緒に働くのが楽しいと感じています。たくさんの後輩と出会えるのを楽しみにしています。

頼　生産設計はコミュニケーション力が生かせる仕事です。先日も現場所長とサッカーW杯の話題で盛り上がりました。日頃のコミュニケーションを重視すると、よい雰囲気で仕事がしやすくなります。学生の間にそういった力も磨くとよいと思います。

村田　基礎を大切にしてほしいです。私自身、学校でたたき込まれた基礎があったから、自分の力を生かせる生産設計という道を見つけることができました。好きな仕事に就くために勉強をがんばってください。

尾崎　建築業界には幅広い選択肢があります。好きなことに挑戦し、自分の道を見つけてほしいです。

中村　熱いメッセージをありがとうございます。最後に、西岡先生から将来の建築生産設計界を担う若手・学生の皆さんへのエールをお願いします。

西岡　建築が高度化・大型化・分業化していく中、生産設計の役割はますます重要になっていきます。BIM を始めとする新技術を取り入れながら、後輩たちと共にこの業界を強力にけん引していってください。生産設計の認知度が高まり、皆さんが学生たちから憧れられる存在となってくれることを期待しています。



中央工学校

「理論より実際」を重視　誠実で社会性豊かな技術者を育てる



STEP（創立 85 周年記念館）



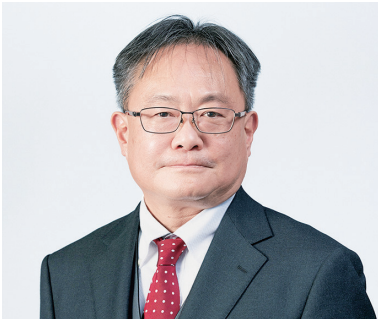
FacilityStudio 建築設備実習室



DesignStudio 体験型学習室

1909 年の設立以来、中央工学校は校是を「堅実」とし、「厳しい実務教育」と「人間涵養教育」による正しい職業観を備えた人材の育成に努めてきました。「理論より実際」を学習指導の基本姿勢として、「誠実で社会性豊かな技術者」を育てることを不変の使命としています。専門的な知識・技術の修得に加え、社会が求める豊かな人間性を育む教育を心掛けています。

中央工学校
■所在地・拠点：東京都北区王子本町 1-26-17
■設置学部・学科：建築、木造、設備、インテリア、土木、測量、機械、CAD
■設立：1909年
■学生総数（直近）：1,050人
■ＵＲＬ：https://chuoko.ac.jp



校長　**土田 俊行**氏

中央工学校は、1909 年に「工業技術を教授し、もって実務的な技術者を養成する」ことを目的として設立され、現在に至るまで 11 万人を超える工業技術者を社会に送り出しています。本校が求める人材像は、「自らの技術により自立を志す者」と「協調性をもち人とのかかわりを大切にする者」であり、この気持ちをもった若者が自らの夢の実現に向けて頑張ることを全力で応援していきます。



学生発表会

生産設計を体系的に学ぶ実践カリキュラム

近年の建設業界では、設計技術者としての専門性にとどまらず、幅広い知識や実践力を備えた人材が求められています。そこで同校では、「実技・実習訓練を重視した教育の実践」を教育方針に掲げ、実務に直結する技術力を持つ人材の育成に力を注いでいます。具体的には「WorkStudio総合実習室」での施工実習や、地域と連携した設計提案など、実務的な教育プログラムの充実を進めています。

生産設計について学ぶカリキュラムとして、建築設計科（２年課程）２年次の「施工演習」があります。施工図の作成や測量実習、施工関連の実習を通じて、施工に関する知識や技術への理解を深めるとともに、実務に必要な実践力を養っています。建築学科（４年課程）と建築工学科（３年課程）の最終学年では、「施工専攻実習」を中心に、生産設計について体系的に学ぶ科目を用意しています。学生自身が設計した建物を題材に施工図を作成し、施工計画から施工図作成までの一連のプロセスを実践的に学ぶことで、設計と施工の両面を理解した実務に強い技術者の育成を目指しています。









就職・資格取得を一体でサポート

2025 年度の主な進路（建築・インテリア関連学科）は表の通りです。

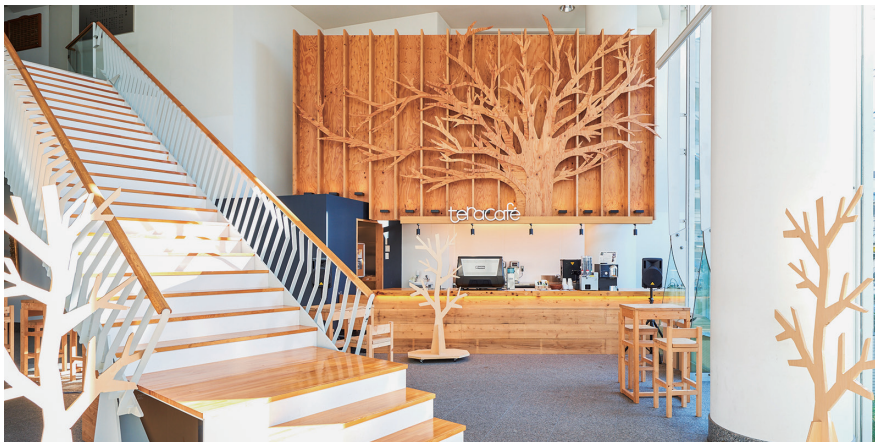
同校では、二級建築士の資格取得を目標とした「二級建築士専科（１年課程）」への再入学を含め、就職も併せた総合的な進路指導を行っています。また、専門学校の役割のひとつである「実務教育」を重視し、生産設計を含む実践的な教育内容の充実を図っています。昨年度の学生求人倍率（建築・インテリア関連学科）は 53.1 倍で、建設業界における深刻な人手不足の影響が伺える結果となりました。そうした状況を踏まえ、本校では早期離職や就職後のミスマッチを防止する観点から、インターンシップへの参加も積極的に推奨しています。

毎年、生産設計職への就職を希望する学生がいます。人数は決して多くありませんが、在学中に学んだ施工に関する知識を生かせる仕事として進路に選んでいるようです。

表　卒業後の進路

ア.	総合建設業	32.8%
イ.	意匠設計	15.2%
ウ.	設備施工	7.8%
エ.	大工	7.8%
オ.	住宅メーカー	7.0%
カ.	住宅設計施工（工務店関連）	3.9%
キ.	生産設計	3.5%
ク.	進学	3.5%

専門学校東京テクニカルカレッジ
「わかる」から「できる」へ　実践力を磨く建築教育



半世紀以上の歴史を誇る総合学園・小山学園が母体にある専門学校です。建築科、建築監督科、通信制建築科／建築士専科、インテリア科を擁し、約 800 人の学生が学んでいます。「『わかる』だけでなく『できる』ようになる」と「社会で活躍する力を育てる」を教育方針に位置付けています。専門知識を身につけるだけでなく、実際に設計する、プログラミングする、実験するといった実践的な能力の修得に力を入れています。





専門学校東京テクニカルカレッジ
■所在地：東京都中野区東中野 4-2-3
■設置学部・学科：
　建築科、建築監督科、通信制建築科、
　建築士専科、インテリア科、情報処理科、
　データサイエンス＋ AI科、IoT＋ AI科、
　ゲーム＋デジタルクリエイター科、
　Web動画クリエイター科、
　バイオテクノロジー科、
　環境インフラエンジニア科
■設立年：1969年（小山学園設立）
■学生総数（直近）：約 800人
■ＵＲＬ：https://tec.ttc.ac.jp/



校長 **白井 雅哲**氏

激動する社会で活躍するためには、「わかる」だけでなく「できる」ようになることが大切だと考えています。単に専門分野を理解しているだけでなく、実際に設計ができる、施工計画を立てられる、施工図が描けるなど、実際に「できる」ことが重要です。知識・技術を身に付ける「インプット」だけでなく、身に付けた知識・技術を使って実際に何ができるのか「アウトプット」することにも力を入れています。そうした考えの下、クラスメートと協力して課題解決に取り組む授業「リアルジョブプロジェクト（RJP）」を設けています。





総合的に理解を深め建設業界で活躍できる人材を育成

まじめに実直に建築・インテリアの学習に取り組んでいることが同校の特色です。意匠だけでなく、法規や構造上の基準を踏まえながら課題製作に取り組み、卒業後に二級建築士レベルの知識・技術を習得することを目指しています。また、４年課程に「建築監督科」という、施工管理技士の育成を目的とした学科を有している点も特徴です。施工図や各種構造図をはじめ、施工計画図の作成まで、建築生産に直結した実践力を身に付けられる教育を行っています。その教育内容は大手建設会社からも高く評価されています。

４年課程の「建築施工図実践」という科目では、生産設計を設計と施工をつなぐ重要な技術と位置付け、施工図や施工計画図の作成を通して実践的な知識・技術を学びます。工程・品質・安全・原価管理・環境との関係についても、総合的に理解を深め、ゼネコンなどの企業で施工管理技術者として活躍できる人材を育成しています。





きめ細かな就職支援で希望進路へ

建築科とインテリア科では、地域に根ざした建設会社や住宅関連企業へ就職する学生が多いです。特にインテリア科は住宅メーカーなどにも多くの人材を輩出しています。４年課程の「建築監督科」では、ほとんどの卒業生が大手･準大手ゼネコンに入職しています。就職支援では、入学直後から期ごとに就活ガイダンスを実施するとともに、担任制によるきめ細かな個別指導で対応しています。学生ひとりひとりの適性や希望を踏まえながら企業とのマッチングを行い、安心して社会へ送り出せるよう支援しています。

生産設計を手掛ける会社への就職は、２年課程の建築科を中心に実績があります。卒業生の約 30％が就職後に設計関連の業務に携わっており、そのうち約半数が生産設計職に就いています。施工管理職と併せ、建築生産分野で多くの卒業生が活躍しています。



――建築生産設計協力会とは――

建築生産設計協力会は、建築生産設計（施工図）を手掛ける企業が集まって 2024 年に設立されました。建築生産設計業務の認知度向上を目的に、業界の活性化や人材獲得・育成につながる活動を展開しています。

建築生産設計業界はゼネコンの施工図作成代行から始まり、その歴史はまだ半世紀です。今では再開発事業や多種多様な建物づくりに欠かせない職種となりましたが、決して知名度が高いとは言えず、建築を学ぶ学生にもなじみの少ない仕事の一つです。一方、高度化・分業化が進む建築の施工現場では、その役割はますます重要になっていくとみられています。緻密な施工図で建物の生産情報を最終決定し、施工品質・性能やコストまでを左右する生産設計の役割は、社会的な意義も無視できません。したがって将来の担い手確保を見据え、こういった生産設計の魅力、やりがいを広く知ってもらうことが必要です。

建築生産設計協力会では、会員企業が連携して、学生への説明会を開催するなどの啓発活動を行っています。生産設計の定義や図面の説明、2DCAD や BIM といったツールの紹介、将来の展望などの情報を提供します。

団体概要

名称
建築生産設計協力会（任意団体）

設立
2024（令和 6）年 7 月 8 日

会員数
正会員：18 社　特別賛助会員：1 社　賛助会員：10 社　（2026 年 8 月時点）

所在地
東京都千代田区富士見 2-2-2　東京三和ビル 401

建築生産設計協力会会員企業

アーキウェル株式会社
（東京都千代田区）

アイテック株式会社
（東京都足立区）

株式会社アルクデザイン
（東京都北区）

株式会社池下設計
（東京都中野区）

株式会社 M&Ftecnica
（東京都江東区）

株式会社エムシーエム
（東京都千代田区）

株式会社奥山
（千葉県千葉市若葉区）

株式会社河村建設
（東京都府中市）

株式会社 sai 総合企画
（東京都千代田区）

株式会社 sai テクニカ
（東京都千代田区）

株式会社佐沼建築システムデザイン
（東京都新宿区）

施工図屋さん合同会社
（東京都中央区）

株式会社匠設計コンサルタント
（東京都渋谷区）

株式会社テクニカルドラフト
（東京都千代田区）

株式会社西建設計
（東京都千代田区）

合同会社バン設計
（香川県高松市）

株式会社山本設計企画
（東京都文京区）

株式会社 YOU 建築事務所
（東京都豊島区）

株式会社 sai テクニカ

業界の求める高い技術を提供　建築技術者のスペシャリスト集団

当社は、建築生産設計分野で 20 年以上の実績を持つ sai グループの一員として、2022 年に設立されました。建築生産設計・建築設計・施工管理・建築事務を主要業務とする建築技術者のスペシャリスト集団です。経営・管理職・技術社員どれをとってもベテランが多く、その経験・スキルを若手社員へと継承していく流れが構築できています。

これまでに手掛けた代表プロジェクトは、東京都港区の麻布台ヒルズ（生産設計 10 名参画）や東京都品川区の OIMACHI TRACKS（生産設計 4 名参画）など。スーパーゼネコンをはじめ業界をリードする建設会社の協力企業として数多くの実績があります。

向上心を忘れず 高みを目指す人材

現在は中途採用が中心ですが、社内教育体制が整ってきたこともあり今後新卒採用を行っていく考えです。「人としての成長なくして、技術的成長なし」との考えに基づき、素直な気持ち、貪欲な向上心を忘れず、プロとしての自覚を持って行動できる方に期待しています。


建材メーカー研修会


周年記念社員クルージング



代表取締役社長　**伊藤 直哉氏**

設立してからこれまで、「自己研鑽～感性を磨き、変化を恐れず成長しよう～」をテーマに社員一人一人の考えや行動を尊重し、企業がそれをフォローするイメージで運営してきました。社会情勢や働き方スタイルが刻々と変化する中、当社の経営理念は継続し、社員の成長を支えてあげられるような組織づくりを行っていきたいと考えます。建築生産設計業務は社外勤務中心ですので個別のヒアリングや企業全体の親睦会など、コミュニケーションの場を大切にし、企業と社員が共に成長できるよう、今後も取り組んでいきます。

株式会社 saiテクニカ
■所在地：東京都千代田区岩本町 3-3-5
　　秋葉原 SHビル 2階
■設立：2022年
■資本金：2000万円
■従業員数：64名（2026年 7月現在）


暑気払いにて

≪社員紹介≫



大内 照雄さん

プロジェクトマネージャー
担当業務：生産設計
社員歴：３年（生産設計業務経験：32年）

生産設計とは、設計と現場施工をつなぐ仕事です。10 年ほど前までは、設計図をもとに施工図を作成すれば十分でした。しかし近年では、電子化の進展を背景に、建築法規の知識も求められるようになっています。設計変更が工程の終盤まで続き、細部まで十分に検討されないまま設計図が作成されることが増えました。施工中にも設計変更が行われるため、それを見落とすと内装完成後に壊して造り直さなければならない事態にもなりかねません。そのため、生産設計は単なる「設計の補助」ではなく、「設計者と共に設計を詰めていく仕事」へと変化していると感じています。

今後、この業界は二極化していくと考えています。たとえ BIM を操作できても、建築士レベルの知識がなければ、単なるオペレーターにとどまります。経験に裏打ちされた判断力が不可欠であり、AI による代替が比較的進みにくい分野の一つだと考えています。さらに、施主や設計者の要望をくみ取るコミュニケーション能力も重要になっています。以前はコミュニケーションが苦手だからこの業界を選ぶ人もいましたが、そのような業務は今後 AI に代替される可能性があります。専門知識やコミュニケーション能力を備えた人材は、新しい時代でも必要とされ続けるのではないでしょうか。



李 振華さん

プロジェクトスタッフ
担当業務：生産設計作図・修正
社員歴：1年 3カ月（建築設計・都市計画経験 16年）

２年前に来日し、１年３カ月前にこの会社に入社しました。来日当初は日本での生活や就職活動に不安もありましたが、温かく迎え入れてくださった皆さまのおかげで、毎日前向きに挑戦できています。いつも丁寧に指導・応援してくれる仲間に支えられ、この会社の一員になれたことを非常に幸運に感じています。これまでに 16 年ほど建築設計や都市計画に携わってきました。その経験を活かしつつ、日本のプロジェクト環境で新たな視点を取り入れながら成長したいと考えています。会社への恩返しという気持ちを忘れず、今後はチームの一員として、より一層会社の発展に貢献できるよう尽力します。



青柳 龍幸さん

プロジェクトサブリーダー
担当業務：生産設計作図・修正
社員歴：2年 6カ月（生産設計経験 4年 3か月）

施工図のやりがいは、自分が描いた詳細な図面が、そのまま本物の建物として形に残ることだと思います。設計と現場の架け橋となり、周囲から「この人が描いた図面なら間違いない」と真っ先に名前が挙がるような、信頼される技術者になりたいです。

株式会社匠設計コンサルタント
設計・生産設計を支える技術と人材育成

生産設計図作成を主業務とし、BIM モデル作成、設計補助業務、意匠設計業務など、建築プロジェクトにおける幅広い技術サービスを提供しています。当社の強みは、人材育成・現場力・技術力を融合した生産設計体制です。各現場ではチームで業務に取り組み、技術指導や情報共有を行いやすい環境の下、若手社員の育成と品質向上につなげています。

さらに、社内の設計室では BIM・2D による生産設計に加え、設計補助や意匠設計にも対応しているため、設計から生産設計まで一気通貫で対応できることも特長です。赤坂地区の大規模オフィスビルプロジェクトでは、設計室が生産設計 BIM モデルの作成から生産設計図の新規作成を担当し、その後、生産設計室のスタッフが現場へ常駐して竣工まで携わりました。設計・現場が密に連携しながらプロジェクトを推進することができました。

当時の常駐スタッフ数名は、現在では設計室に所属し、BIM 業務や設計業務における納まり検討を担うメンバーとして活躍しています。生産設計業務における部門間の連携に加え、人材育成と技術継承につながった事例です。

知識の引き出しを増やす研修制度

社員教育をする上で「素直さ」を大事としています。この「素直さ」とは、自分なりの意見を持ちながら、周囲の意見や考え方にも耳を傾け、柔軟に行動できる力のことです。こうした姿勢を育むために新卒研修では「月間レポート」を設けています。これはさまざまなテーマについて、法令集やメーカー資料、事例などを調べ提出するものです。その際には先輩社員にも質問をしながら理解を深めることで、「素直さ」を好奇心や協調性に成長させていく機会としています。また、全社員研修の際には知識の幅を広げるために「グループディスカッション」を行っています。先輩たちの経験してきた事例を学ぶことのほかに、自身の案件説明をもすることで伝える力と聴く力を養い、一人で答えを出すだけではなく、周囲と関わりながら学ぶことを大事にしています。





代表取締役 **福島 誠氏**

私たちは、日本のものづくり文化の根底にある「秩序」と「思いやり」を大切にしています。図面は、自分のためではなく、その先で施工に携わる何百、何千という職人の皆さまへ思いを伝えるものです。だからこそ、「誰が見ても見やすく、誰が見ても間違えない図面」を追求することが、建築技術者としての矜持であると考えています。この考えを社員一人一人が共有し、日々の業務に取り組んでいます。

株式会社匠設計コンサルタント
■所在地：東京都渋谷区代々木２丁目27-16
　　ハイシティ代々木
■設立：1984年
■資本金：1000万円
■従業員数：114人 (2026年 7月時点)



忘年会





研修会

≪社員紹介≫

T.Y さん

主任
担当業務：自社案件設計
　　大規模再開発計画設計協力
社員歴：11年

　建築の品質は、施工段階だけではなく、設計段階でどれだけ課題を抽出し、解決できるかによっても大きく左右されます。そのため、生産設計のメンバーと密に連携し、納まりや施工性を早い段階から検討することで設計品質の向上につなげています。業務リーダーとして心がけているのは、各メンバーや関係者それぞれの考えや課題を整理し、共通認識を持って業務を進められる環境をつくることです。図面とその背景や目的を共有することで、より良い提案や円滑な意思決定につながると考えています。

K.O さん

主任補
担当業務：設計案件の納まり検討
　　超高層建築内装生産設計
社員歴：10年

　学生時代から「自分の仕事が形として残る仕事がしたい」と考えていて、この業界を志望しました。社員同士の雰囲気が良く、ここなら長く働けそうだと感じたことが入社の決め手です。自分が携わった建物が完成し、実際に利用されている様子を見ると今でも嬉しくなります。特に若手の頃に担当した案件を街中で見かけると、頑張ってよかったなと思いますね。また、最近は自分の仕事だけでなく、後輩の成長を感じられることもやりがいの一つになっています。チームで協力して一つのものを作り上げる面白さは、この仕事ならではだと思います。さらに経験を積んで知識を深めながら、大きなプロジェクトを任せてもらえる存在になることが目標です。

A.S さん

係員
担当業務：超高層建築内装生産設計
　　BIM業務・新入社員研修
社員歴：6年

「上京して新しい環境で挑戦したい」という思いを持って就職活動をしていた中で、学校の女性の先輩が働いていることで当社に興味を持ち、「私もここで成長したい」と思い入社しました。仕事のやりがいは、自分が関わった図面が実際に形となり、建物として完成していく過程を見られることです。自分の仕事が社会に役立っていることを実感し、大きな達成感を感じます。まだ学ぶことも多いですが、経験を積みながら知識や技術を磨き、将来的にはプロジェクトの中心となって働く技術者になることが目標です。一つ一つの仕事に真摯に向き合いながら、会社に貢献できる人材を目指して成長していきたいと思います。

株式会社西建設計
チームワークを武器に顧客へ最適価値を提供

2002年に北九州市で創業した当社は、本社のほか福岡、広島、大阪、東京に拠点を置き、生産設計・施工管理・意匠設計を主要業務としています。私たちは常にチームワークを大切にし「全員経営・全員成果」をスローガンに生産設計の品質向上と効率化に取り組んでいます。一人一人の知識や経験を共有し、部門間の連携を強化することで、お客さまに最適な生産設計を提供し、ものづくりの価値向上に貢献します。

当社が携わったプロジェクトのうち、東京都目黒区の目黒清掃工場建替工事では、着工から竣工を向かえるまでの約6年、生産設計業務のメイン企業として技術協力を行いました。一般的な建築物と異なる特殊なプラント施設だったため、さまざまな調整業務が通常よりも多くありました。建築工事とプラント工事との取り合い調整は、特に苦労した点です。

対策として、建屋工事の工程に合わせるように、プラント工事の資料提出日を建築側にて管理調整することで、図面反映情報の遅れを少なくするよう努めました。一般的な物件より必要な図面も多くありましたが、おおむね現場が要望する期間で業務を完了でき、得意先からも良い評価を頂くことができました。

一生涯の技術力を身につける

近年の「売り手市場」で当社も例にもれず厳しい採用競争の中にいます。それでも毎年15名～20名程度、新入社員を迎えられているのは当社の強みと考えています。明るく前向きな方、コツコツ作業に取り組める方、建築が好きな方、一生涯の技術力を手に入れたい方を歓迎しています。

社員教育の方針は、営業担当者が社員一人一人に月1回程度のヒアリングを行い、社員の現状を把握。その上で今後の方向性を相談、指導していきます。また、全社員を集めて年2回の教育訓練、年2回程度の勉強会を実施しています。今後はさらに小グループでの施工図業務検討会を開催する計画です。

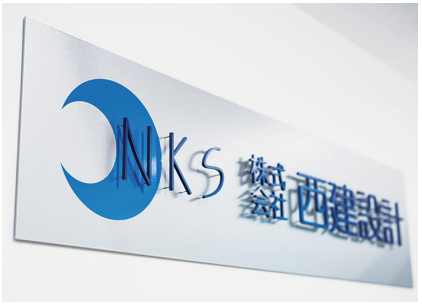




代表取締役社長 **田中 通人氏**

技術を磨き、人を育て、未来をつくる――。「常に最高の技術者集団であれ」という理念の下、技術力の向上と人材育成に力を注いでいます。安心して働ける職場環境にて、経験豊富な社員と若手社員がお互いを刺激しながら成長しています。年齢や性別、経験に関わらず挑戦できる環境があり、一人一人が活躍できる会社です。

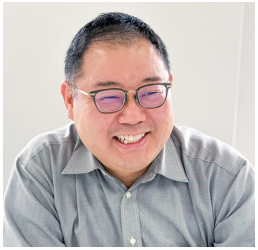
株式会社西建設計
■所在地：北九州市小倉北区鍛冶町 1-1-1
北九州東洋ビル 6階
■設立：2002年
■資本金：1000万円
■従業員数：396名（2026年5月31日現在）







≪社員紹介≫



今田 学さん

東京支店設計長
担当業務：生産設計業務全般
生産設計業務歴：24年目

生産設計図は、工事を進める上で必要不可欠な資料です。現場より求められている情報、技術要望内容などを図面にどのように表現し、反映させるかが重要です。そのため、若い社員には、表現の仕方について注意深く指導を行っております。また、「図面というツールを通して現場貢献」という意識も指導の中で伝えています。社員には用途や規模の異なる様々な物件に携わってもらい、色々な経験を積んでもらっています。人材が要となる仕事です。そのため、生産設計の仕事を通して社会貢献できる人材育成にも力を注いでいます。



侘屋 愛美さん

東京支店技術部
担当業務：施工図業務
社員歴：10年目

西建設計に入社して10年、夢が一つかないました。それは、「地図に自分が関わった建物が載る」です。その建物の1階の床石には自身の名前も書かせてもらいました。でもその夢をかなえることができたのは、私一人の力ではありません。優しい先輩方のおかげです。自分が困った時、壁にぶつかった時、親身になって相談にのってくださった先輩がいたからです。今後はもう少しだけ優しい先輩の方々に甘えつつ、後輩に自分が先輩からしていただいたような相談、指導をしていきたいと思います。



仲川 佳孝さん

東京支店技術部技術主任
担当業務：生産設計（主に躯体関連）
生産設計業務歴：19年目

会社説明会で生産設計というものを知り、正直理解はできなかったが面白そうだなと感じ、思い切って飛び込んでみました。自分で納め描いた図面が承認され、その図面で職人さんたちが実際に建物を建て、その建物が地図に載り、その建物が何十年と人々の生活の一部になる。ただの紙1枚がここまで膨らんでいくのだと思うとスケールの大きい仕事をしているんだと思います。竣工後に携わった物件を見に行くことがあるのですが、実際に人々が行き交っている様子をみるとすごいやりがいを感じますよ。

株式会社山本設計企画
40年にわたり培ってきた確かな技術力と柔軟な対応力

1986年の設立以来、生産設計を主要業務とし、多数の大手・中堅ゼネコンと提携関係を築いてきました。近年は施工管理業務にも注力しています。「40年にわたり培ってきた確かな技術力と実績」、「施工現場と設計をシームレスにつなぐ柔軟な対応力」が当社の強みです。これまで、誰もが知るランドマーク的な商業施設や高層オフィスビル、公共施設などを手掛けてきました。

近年の実績には、MIYASHITA PARK、渋谷ヒカリエ、日本武道館、品川再開発などがあります。ある工事で、工期が非常にタイトで、なおかつ現場の施工条件が日々変化する難しい事態に直面しました。現場施工図スタッフに加え、当社社内作図やリモート業務を活用し、施工図長とも密に連携を取りながら、工事に支障がないよう図面を作成していく方法を徹底的に追求しました。チーム全員の技術とコミュニケーションを結集して一つの大きなプロジェクトを支えることが、生産設計ならではの醍醐味と達成感です。

未経験からプロフェッショナルに

専門知識の有無よりも、「ものづくりが好き」「一から技術を身につけたい」という意欲を重視した採用を行っています。素直な気持ちで学び、成長を楽しめる方、チームでのコミュニケーションを大切にできる方を求めています。図面は人と人との対話から生まれます。周囲と協力しながら仕事を進められる方を歓迎します。

未経験からでも安心してプロフェッショナルを目指せる環境を整えています。入社後は約半年かけて、CADの基本操作から図面の読み方まで、先輩社員がマンツーマンに近い形で丁寧に指導するOJT体制をとっています。現場常駐の業務形態となるため、各社員の状況も定期的に確認と把握をできるようにしています。



40周年集合写真


代表取締役 **山本 賢一郎氏**

2026年に創立40周年を迎えることができました。社員一人一人の努力と、お客さまとの信頼関係の賜物です。経営理念は、「社員が心身ともに健康で、安心して長く働ける環境づくり」と「気軽に意見を交わし合える風通しの良い社内コミュニケーション」です。建築業界は今、変革の時代を迎えています。これまで培ってきた技術を守りつつも、若い皆さんの新しい感性やアイデアを積極的に取り入れていきたいと考えています。建築の知識がなくても、「地図に残る仕事に携わりたい」「一生モノの技術を身につけたい」という熱い想いを持った皆さんとお会いできることを、心から楽しみにしています。

株式会社山本設計企画
■所在地：東京都文京区千駄木 2-13-1
ルネ千駄木プラザ15
■設立：1986年
■資本金：1000万円
■従業員数：42名（2026年7月1日現在）


新人現場見学会 -


社内研修発表会


社員旅行　京都

≪社員紹介≫



竹内 由宇さん

主任
担当業務：生産設計
（本社持ち帰り図面取りまとめ）
社員歴：17年

３年前までは大手ゼネコンの現場に常駐していましたが、現在は本社にて各現場の持ち帰り対応図面の取りまとめを行っています。現場業務とは異なり、多種多様な現場の図面をさばいて納品しなくてはならず、人員の調整を行ったり、日々の進捗を常に把握したりするように心掛けています。新人教育にも携わり、建築未経験の方や外国籍の方もいる中で、できるだけ分かりやすく物事を説明するようにしています。CAD 操作の研修を中心に建築座学や施工管理、現場の見学会など幅広い視点で建築に興味を持ってもらえるよう取り組んでいます。



山森 翔太さん

主任
担当業務：生産設計（施工図）
社員歴：11年

スーパーゼネコンの案件も多く、さまざまな規模のプロジェクトに携われるのが当社で働く魅力の一つです。現場常駐となってからも社長が定期的に訪問してサポートしてくれ、経験豊富な先輩がいる現場への配属となるので安心して働けます。現場で働き始めて気付いたのは、施工図は思っていた以上に大切な存在だということです。多くの人が施工図を基に検討し、協力しながら建物をつくっていくからです。自分が作図した通りに建物ができ上がっていくことがこの仕事の面白さ、やりがいだと私は思います。先輩方の指導のおかげで今では現場から頼りにされることもでてきました。今後は自身のスキルアップに加え、後輩に施工図の面白さに気付いてもらえるような仕事をするのが目標です。



梶清 奈保子さん

担当業務：生産設計（BIM・ICT支援）
社員歴：7年

施工図の仕事は、単に図面を描くだけではなく、「どのように納めるか」「どのように施工するか」を考えながら建物づくりに携われることに大きな魅力があります。誰にとっても分かりやすい図面づくりを心掛けるとともに、現場の方々とコミュニケーションを取りながら、工事がスムーズに進められるよう図面を作ることに面白さを感じています。近年はBIM 活用にも関心を持っています。今後は施工図の知識と経験を深めていくとともに、BIM やデータ活用、業務自動化などの DX 施策を通じて、施工図と BIM の両面から建物づくりを支え、現場の負担軽減と生産性向上に貢献していきたいです。また、若手社員が活躍しやすい環境づくりにも積極的に取り組んでいきたいと思います。

建築学生のための
コンペ・イベント情報SNS

建築こんぺいと

@kenchiku.konpeito

「コンペ」×「エイト(無限大∞)」=「こんぺいと」

建築を学ぶ学生の＋αになる情報(設計展やイベント等)を発信中！
限られた学生生活、色んな事に挑戦しよう！

＼2026年10月～12月開催予定！／

「第3回 建築学生のためトートバッグデザインコンテスト」

募集テーマ：『夢の建築』

最優秀作品は実際にトートバッグ化！

受賞者には豪華賞品**も！** 詳細はインスタグラムを✓



建築学生のための総合情報サイト

総合資格navi

←サイトはコチラ

Point 1
学生生活、も～っと充実させるなら!!

◎自身をレベルUPするためのヒントが満載！限りある学生生活、色々な事に挑戦しよう！

- 建築学生・土木学生が身に付けるべき知識＆スキル特集
- 全国の設計展イベント情報
- 各種キャンペーンやプレゼント企画も多数実施！





Point 2
建設業界で就活するなら!!

◎建設業界に特化した就活情報がまとまっているから、就活の効率UP！

- あなたを必要とする企業からスカウトが届く
- 興味のある企業にアプローチができる
- 実際に選考に通過したESや体験談が見られる

◎さらに！春期・秋期で合説も開催！運命の企業に出会おう！







就活を始めたてなら、
まずは
『にゃんぺい先生の就活ゼミ』!!
就活手順や業界のことを
学ぶのじゃ！

※総合資格naviで配信中！

にゃんぺい先生

定年間近の教授（就職担当）。面倒見が良く学生に人気で、放課後になると就活に悩む学生たちが研究室に訪れる。コーヒーが大好き。

総合資格学院の本

試験対策書



建築士 試験対策
建築関係法令集 法令編
定価:3,080円
判型:B5判



建築士 試験対策
建築関係法令集 法令編S
定価:3,080円
判型:A5判



建築士 試験対策
建築関係法令集 告示編
定価:2,750円
判型:B5判



1級建築士
学科試験対策
学科 ポイント整理と確認問題
定価:3,850円
判型:A5判



1級建築士
学科試験対策
学科 厳選問題集 500＋125
定価:3,850円
判型:A5判



1級建築士
学科試験対策
学科 過去問スーパー7
定価:3,850円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 ポイント整理と確認問題
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 厳選問題集 500＋100
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 過去問スーパー7
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
設計製図試験対策
設計製図 テキスト
定価:4,180円
判型:A4判



宅建士 試験対策
必勝合格 宅建士 テキスト
定価:3,080円
判型:A5判



宅建士 試験対策
必勝合格 宅建士 過去問題集
定価:2,750円
判型:A5判



1級建築
施工管理技士
第一次検定 問題解説
定価:2,750円
判型:A5判



2級建築
施工管理技士
第一次検定・第二次検定 問題解説
定価:2,090円
判型:A5判



2級建築
施工管理技士
第一次検定 テキスト
定価:2,420円
判型:A5判

設計展作品集＆建築関係書籍



建築学縁祭オフィシャルブック
定価:1,980円
判型:B5判



建築新人戦
定価:1,980円
判型:A4判



Diploma×KYOTO
定価:2,200円
判型:B5判



DESIGN REVIEW
定価:2,200円
判型:B5判



赤れんが卒業設計展
定価:2,200円
判型:B5判



画文で巡る! 最強TOKYO 建築図鑑
定価:2,420円
判型:A5判



画文で巡る! 丹下健三・磯崎新 建築図鑑
定価:2,420円
判型:A5判



構造デザインマップ 東京
定価:2,090円
判型:B5判変形



構造デザインマップ 関西
定価:2,090円
判型:B5判変形

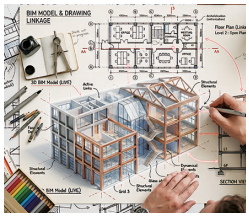


環境デザインマップ 日本
定価:2,090円
判型:B5判変形

お問い合わせ
総合資格学院 出版局
［URL］https://www.shikaku-books.jp/
［TEL］03-3340-6714

Architekton

【アルキテクトン】古代ギリシャ語で建築家の意。
「始原、原理、首位」を意味するarchéと、「職人、工匠」を意味するtektónの合成語。世界最古の建築書『ウィトルーウィウス建築書』の訳者である森田慶一は、ギリシャ時代の観念として、建築家とは「諸技術の原理的知識をもち、職人たちの頭に立って制作を指導しうる工匠の術」をもつ者だとしている。また、建築家に必要な知識は、「制作・実技」と「理論」とから生ずるとも述べている。



［表紙］
画像は約半世紀に渡る生産設計ツールの歴史をAIでイメージ化したもの。図面作成の歴史は手書きから始まり、2次元CADの登場でDrawingの効率化がなされたが、さらにBIMの誕生により2次元では見えづらかった建物の全容や不具合、問題点を可視化することが可能となり、発注者、設計者、施工者間の早期合意形成の効果がもたらされより良い建物づくりの一役を担うことになった。
生産設計者はこれら3種類のツールを使いこなす『Professional Engineer』である。
（作成者：アイテック株式会社　代表取締役　木村　雄一）

発行　Architekton 首都圏 43号

発行人　佐藤 拓也

発行元　株式会社総合資格
〒163-0557　東京都新宿区西新宿1-26-2　新宿野村ビル22F
TEL 03-3340-2803（学校法人推進室）
株式会社総合資格　https:///.www.sogoshikaku.co.jp/
総合資格学院　https:///.www.shikaku.co.jp/
総合資格学院 出版サイト　https:///.www.shikaku-books.jp/

編集　株式会社総合資格　学校法人推進室（田中雅弘、福岡千晶）

取材・文・構成　株式会社日刊建設工業新聞社

印刷　シナノ書籍印刷株式会社

発行日　2026年10月1日

※本書の一部または全部について無断で、複写、複製することは禁じられております。

アルキテクトンシリーズ バックナンバーのご紹介

バックナンバーをご希望の方は、下記までメールにてお申し込みください。
なお、お申し込みの際には下記の必要事項をご記入ください。

▶▶▶お申込みアドレス：gakkou@shikaku.co.jp

■ 必要事項 ■
①メールタイトル：バックナンバー希望　②希望するナンバー　③住所／氏名／年齢／電話番号
④e-mailアドレス　⑤学校名（学部・学科・研究室・学年）　⑥希望進路（就職／進学）　⑦進路（内定先／進学先）
※⑥⑦は、該当する何れかをご記入ください。

Architekton 首都圏

39号



施工効率、品質の
更なる向上へ
生産設計特集

40号



よりよい建築のための、
建築家とエンジニアの
協働による設計教育ー1
千葉工業大学
建築学科・都市環境工学科

41号



システム工学を学び
地域社会・グローバル社会へ
芝浦工業大学
システム理工学部
環境システム学科

42号



よりよい建築のための、
建築家とエンジニアの
協働による設計教育ー2
千葉工業大学
建築学科・都市環境工学科

Architekton 首都圏∞

Vol.01



WA-K.project
空き家改修プロジェクト
建築計画研究部

Vol.02



WA-K.project
COLOR MY TOWN
利根運河シアターナイト
加子母木匠塾

Vol.03



WA-K.project
空き家改修プロジェクト
学生如学会
建築構造デザイン研究会
Perspective研究会
dipa

Architekton

首都圏

2026 October

総合資格学院

